

07 心理学専攻

Psychology

(1) 修士課程

● 目的

心理学専攻は、現代の多様な社会的要請に応えるような高度な専門的研究を遂行し得る人材の育成と、さらに建学の理念に基づき、人類の幸福に貢献できるような実践的な専門家の養成を目的とする。

● 学位授与の方針

心理学コースにおいては、精神と身体に関する生物科学を基盤とした神経科学、認知科学、行動科学等最新の科学的知識の獲得、およびそれらの分野における研究遂行能力を習得していること、臨床心理学コースにおいては、サイエンティスト・プラクティショナーモデルを土台とした実証的な根拠に基づく実践的活動に従事しうる資質と実力が備わっていることが求められる。

● 教育課程の編成・実施方針

心理学コースでは、精神と身体に関する基礎科学として、「生理心理学」の講義および演習、「認知心理学」の講義および演習、「行動分析学」の講義および演習、それに加え精神と身体の融合を具現化する科学としての「禅心理学」の講義および演習を教育課程の中核に配置し、さらに周辺諸科学の知見を幅広く習得する講義科目、および最新の科学的成果を講じる「心理学特論」を設けている。

臨床心理学コースでは、(財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院としての要件を充足する科目群を中心に教育課程を編成している。さらに研究者としての実力を涵養するため、心理学コースにおける各授業科目が履修可能である。また「実験実習」のような心理学における必須科目を学部で履修していない院生に対しては、学部科目も履修できるようにしている。

● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上とし、2年次は心理学コースは指導教員の演習4単位以上とし、臨床心理学コースは指導教員の演習4単位を含む6単位以上とする。

【心理学コース】

年次	選択必修科目		選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	指導教員の演習以外に12単位以上	10単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位			

【臨床心理学コース】

年次	必修科目	選択必修科目		選択科目	合計
1年次	16単位	指導教員の演習4単位	指導教員の演習以外に講義科目4単位以上、実習科目4単位以上	12単位以上	49単位以上
2年次	5単位	指導教員の演習4単位			

● 学位論文の審査基準

修士論文は以下の基準に従って審査される。

1. 研究目的が明確かつ具体的に記述されており、その独創性と研究の価値がこれまでの心理学研究の蓄積の上に適切に位置づけられていること。
2. 研究デザイン、結果の分析、結論の導出などが再現可能な実証的方法で実施されていること。
3. 論文の体裁が国際的な論文作成のガイドラインである「アメリカ心理学会出版マニュアル」および日本心理学会の「執筆・投稿の手引き」に準拠したものであること。
4. 各種学会、大学、専攻等が定める倫理基準を満たしたものであること。

● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の深い全科目にわたって履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、他専攻の講義科目の中から4単位に限り履修することができる。なお、他専攻履修をする場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 他専攻修得単位・協定（認定）校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
4. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目（指導教員の指定する科目）の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。

● 開講科目（a：前期開講科目，b：後期開講科目）

【心理学コース】※本表以外の臨床心理学コースの科目は履修できない。

授業科目	学習方法	単位	開講期間	担当者	備考
選択必修科目（20単位以上）					
禅心理学研究（1）a・b	講義	各2	前期 後期	専任 鈴木常元	(隔年開講のため本年度休講)
禅心理学研究（2）a・b	講義	各2	前期 後期	専任 鈴木常元	
行動分析学研究（1）a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博（心） 久保尚也	(隔年開講のため本年度休講)
行動分析学研究（2）a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博（心） 久保尚也	
社会心理学研究（1）a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博（学術） 長谷川孝治	(隔年開講のため本年度休講)
社会心理学研究（2）a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博（学術） 長谷川孝治	
生理心理学研究（1）a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博（学術） 岩城達也	(隔年開講のため本年度休講)
生理心理学研究（2）a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博（学術） 岩城達也	
認知心理学研究（1）	講義	2	前期	兼任 今井久登	
選択科目（10単位以上）					
保健医療分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任 川嶋新二	
福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任 石井正子	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	専任・博（教育） 藤田博康	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任 隅谷理子	
家族関係、集団、地域社会における心理支援に関する理論と実践	講義	2	後期	専任 八巻秀	
認知心理学研究a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博（文） 永田陽子	
行動分析学研究a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博（心） 久保尚也	
社会心理学研究a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博（学術） 長谷川孝治	
生理心理学研究a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博（学術） 岩城達也	

【臨床心理学コース】

授業科目	学習方法	単位	開講期間	担当者	備考
必修科目（24単位以上）					
1年次必修科目					
臨床心理学特論a	講義	2	前期	専任・博（心） 茨木博子	
臨床心理学特論b	講義	2	後期	専任・博（教育） 藤田博康	
臨床心理面接特論	講義	2	前期	専任 八巻秀	
心理的アセスメントに関する理論と実践	講義	2	後期	専任・博（文） 永田陽子	
心理支援に関する理論と実践	講義	2	後期	専任 鈴木常元	
臨床心理査定演習	演習	2	前期	専任・博（教育） 遠藤歩	

臨床心理基礎実習	実習	2	通年	専任・博 (心) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	鈴木永八 藤遠久	木田巻田 藤羽	常博 陽博	元子 子秀 康步 康	
心理実践実習 (学内実習) I	実習	1	後期	専任・博 (文) 専任・博 (心) 専任・博 (教育) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	永茨 鈴八 藤遠久	田木木 木巻田 藤羽	陽博 常博	子子 元元 秀秀 康康 歩歩 康	
心理実践実習 (保健医療) (1)	実習	1	後期	専任・博 (心) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	茨鈴 永藤 八遠久	木木 田田 巻藤 羽	博常 陽博	子元 子元 康秀 歩康	
2年次必修科目									
心理実践実習 (学内実習) II a・b	実習	各1	前期 後期	専任・博 (文) 専任・博 (心) 専任・博 (教育) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	永茨 遠鈴 藤八久	田木 藤木 田巻 羽	陽博 常博	子子 歩元 康秀 康	
臨床心理実習 a・b	実習	各1	前期 後期	専任・博 (心) 専任・博 (教育) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	茨遠 鈴永 藤八久	木藤 木田 田巻 羽	博常 陽博	子歩 元元 子康 秀秀 康	
必修科目									
心理実践実習 (事例研究) (1)	実習	2	通年	専任・博 (心) 専任・博 (心) 専任・博 (教育) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任	久茨 遠鈴 永藤 八	羽藤 木田 田巻 羽	博常 陽博	康子 歩元 子康 秀	(隔年開講のため本年度休講)
心理実践実習 (事例研究) (2)	実習	2	通年	専任・博 (心) 専任・博 (心) 専任・博 (教育) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任	久茨 遠鈴 永藤 八	羽木 藤木 田田 巻	博常 陽博	康子 歩元 子康 秀	
選択必修科目 (指導教員の演習4単位を毎年度履修すること)									
臨床心理学研究 (1) a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博 (文)	永	田	陽	子	
臨床心理学研究 (2) a・b	演習	各2	前期 後期	専任	鈴	木	常	元	
臨床心理学研究 (3) a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博 (心)	茨	木	博	子	
臨床心理学研究 (4) a・b	演習	各2	前期 後期	専任	八	巻		秀	
臨床心理学研究 (5) a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博 (教育)	藤	田	博	康	
臨床心理学研究 (6) a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博 (教育)	遠	藤		歩	

選択科目 (12単位以上)						
心理実践実習 (保健医療) (2)	実習	1	後期	専任・博 (心) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	八茨 鈴永 藤遠久 巻木 田藤 羽 博常 陽 博 秀子 元子 康步 康	
心理実践実習 (福祉・司法・産業・労働)	実習	1	後期	専任・博 (教育) 専任・博 (心) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任・博 (心)	遠茨 鈴永 八藤 久 藤木 木田 巻 田 羽 博常 陽 博 歩子 元子 秀 康 康	
心理実践実習 (教育)	実習	1	後期	専任・博 (教育) 専任・博 (心) 専任・博 (文) 専任・博 (教育) 専任・博 (心) 兼任	藤茨 鈴永 八遠 久 岡 田木 木田 巻 藤 羽 島 博常 陽 陽 康子 元子 秀 步 康 子	
禅心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	専任	鈴 木 常 元	(隔年開講のため本年度休講)
禅心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	専任	鈴 木 常 元	
行動分析学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博 (心)	久 保 尚 也	(隔年開講のため本年度休講)
行動分析学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博 (心)	久 保 尚 也	
社会心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博 (学術)	長谷川 孝 治	(隔年開講のため本年度休講)
社会心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博 (学術)	長谷川 孝 治	
生理心理学研究 (1) a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博 (学術)	岩 城 達 也	(隔年開講のため本年度休講)
生理心理学研究 (2) a・b	講義	各2	前期 後期	専任・博 (学術)	岩 城 達 也	
認知心理学研究 (1)	講義	2	前期	兼任	今 井 久 登	
保健医療分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任	川 嶋 新 二	
福祉分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任	石 井 正 子	
教育分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任	黒 沢 幸 子	
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	専任・博 (教育)	藤 田 博 康	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義	2	前期	兼任	隅 谷 理 子	
家族関係・集団・地域社会における心理文脈に関する理論と実践	講義	2	後期	専任	八 巻 秀	
心の健康教育に関する理論と実践	講義	2	集中	兼任	箕 口 雅 博	
投影法特論a	講義	2	前期	専任・博 (心)	茨 木 博 子	
投影法特論b	講義	2	後期	兼任	沼 初 枝	
認知心理学研究a・b	演習	各2	前期 後期	専任・博 (文)	永 田 陽 子	

● 授業科目の概要

■ 臨床心理学特論a・b【講義】

茨木 博子／藤田 博康

臨床心理学に関する学部レベルの基礎知識に加えて、さらに高度で実践的な観点から臨床心理学の諸問題を考え、臨床場面に対処する能力を養成することを狙いとする。

■ 臨床心理面接特論【講義】

八巻 秀

本特論では、様々な臨床現場で行われる面接に通底する基本を重視し、心理臨床家の心得、心理面接をする際の基本ルール、基礎理論、面接の組み立て方などについて講義する。臨床心理面接の基本的な知識を理解し、面接スキルを身につけながら、臨床心理面接技法を体得することが狙いである。

■ 心理的アセスメントに関する理論と実践【講義】

永田 陽子

心理臨床の過程として重要な心理査定理論的基盤について解説した上で、事例及び実習を交えながら指導する。本演習では、治療場面で対象者の現在の状況を客観的に把握し、その全体像を正確かつ明確に解決するプロセスの視点を養うことを目的とする。

■ 心理支援に関する理論と実践【講義】

鈴木 常元

心理臨床では、クライアントと援助者の言語的あるいは非言語的交流を介して臨床心理面接が進展する。援助者の言動は、面接の成否に大きな影響をもたらすため、援助者は自身の言動を意識化することが求められる。本授業は講義・ワーク形式で行い、面接過程における援助者の言動の意識化を試み、セラピーにおける治療的コミュニケーションを探索する。

■ 臨床心理査定演習【演習】

遠藤 歩

心理臨床の過程として重要な心理査定理論的基盤について解説した上で、事例及び実習を交えながら指導する。本演習では、治療場面で対象者の現在の状況を客観的に把握し、その全体像を正確かつ明確に解決するプロセスの視点を養うことを目的とする。

■ 臨床心理基礎実習【実習】

鈴木 常元／茨木 博子／永田 陽子／八巻 秀／藤田 博康／遠藤 歩／久羽 康

臨床活動に従事するために必要な受理面接、臨床心理面接、心理アセスメントの各基本を体験的に学習するとともに、クライアントに対する倫理性や守秘義務など治療者としての基本的態度を学ぶことを目的とする。

■ 心理実践実習（学内実習）Ⅰ【実習】

永田 陽子／茨木 博子／鈴木 常元／八巻 秀／藤田 博康／遠藤 歩／久羽 康

本演習は、学内実習施設において、指導教員や非常勤嘱託カウンセラーの指導の下で、ケース担当、心理検査の実施、インターク面接の陪席等をする他、インタークカンファレンス、ケースカンファレンスに参加し、ケースの見立てや心理査定、心理面接について、それらの基本について学習する。

■ 心理実践実習（保健医療）（1）【実習】

茨木 博子／鈴木 常元／永田 陽子／藤田 博康／八巻 秀／遠藤 歩／久羽 康

本実習は、精神病院での臨床心理実習である。病院での活動を通して様々な疾患の患者との関わり方、およびそこで働く公認心理師、臨床心理士の役割を学習し、実習担当者の指導を受ける。また実習日誌をつけることによって一日の実習を振り返り、それに対して実習指導者、指導教員がコメントする。

■ 心理実践実習（学内実習）Ⅱa・b【実習】

永田 陽子／茨木 博子／遠藤 歩／鈴木 常元／藤田 博康／八巻 秀／久羽 康

本演習は、学内実習施設において、指導教員や非常勤嘱託カウンセラーの指導の下で、ケース担当、心理検査の実施、インテーク面接の陪席等をする他、インテークカンファレンス、ケースカンファレンスに参加し、ケースの見立てや心理査定、心理面接について、具体的に学習する。

■ 臨床心理実習a・b【実習】

茨木 博子／遠藤 歩／鈴木 常元／永田 陽子／藤田 博康／八巻 秀／久羽 康

本演習は、学内実習施設において、指導教員や非常勤嘱託カウンセラーの指導の下で、ケース担当、心理検査の実施、インテーク面接の陪席等をする他、インテークカンファレンス、ケースカンファレンスに参加し、ケースの見立てや心理査定、心理面接について、具体的に学習する。

■ 心理実践実習（事例研究）(2)【実習】

久羽 康／茨木 博子／遠藤 歩／鈴木 常元／永田 陽子／藤田 博康／八巻 秀

自らの実践を振り返り個々の事例への理解を深めることは、臨床実践において不可欠のプロセスである。そのためには、面接記録をまとめ、他者の視点を交えた場で検討をしていくことが重要となる。本実習ではこうした事例研究の方法について、受講生の担当事例などを通じて学んでいく。

■ 臨床心理学研究（1）～（6）a・b【演習】

永田 陽子／鈴木 常元／茨木 博子／八巻 秀／藤田 博康／遠藤 歩

本演習では、修士論文の作成に向け、院生各自が研究テーマに関連する国内外の文献を調べ、発表・討議することを行っていく。そのような中で、研究方法を含めた研究計画を立てながら、研究の実施、結果の整理、考察、といった論文作成へ至る一連のプロセスについて指導、助言する。

■ 心理実践実習（保健医療）(2)【実習】

八巻 秀／茨木 博子／鈴木 常元／永田 陽子／藤田 博康／遠藤 歩／久羽 康

本実習は、主に精神病院での臨床心理実習である。実習指導担当者の下、心理検査の実施や患者との面談、診察の陪席など実際的な病院での活動を通して、ケースの見立て方や介入の仕方、薬物などについて学ぶ。

■ 心理実践実習（福祉・司法・産業・労働）【実習】

遠藤 歩／茨木 博子／鈴木 常元／永田 陽子／八巻 秀／藤田 博康／久羽 康

福祉・司法・産業・労働の各分野の支援施設において、要支援者やその関係者に関わることを通して、心理支援の実際を学ぶ。

■ 心理実践実習（教育）【実習】

藤田 博康／茨木 博子／鈴木 常元／永田 陽子／八巻 秀／遠藤 歩／久羽 康／岡島 陽子

公認心理師養成のために必要な、中学・高校及び教育相談所等での教育分野における学外実習先での心理臨床実習を行う。学外実習施設でのケース活動のほか、そのための事前指導、実習先でのスーパービジョン、事後指導等を含める。

■ 保健医療分野に関する理論と支援の展開【講義】

川嶋 新二

本講義では、精神医学の概念、主要な精神疾患の概要や治療法などについて解説する。これらの精神医学の基礎知識を得ることによって、現場での心理臨床活動に活かせることを目的とする。

■ 福祉分野に関する理論と支援の展開【講義】

石井 正子

本講義では、福祉分野に関する臨床心理学の理論と支援について詳しく解説し、その学問的な位置づけや、具体的な実践方法などについて、理解させることを目標とする。

■ 教育分野に関する理論と支援の展開【講義】

黒沢 幸子

学校教育分野の心理支援は、学校システム全体を視野に入れた、個人と環境双方（児童生徒、教職員、保護者、地域資源）へ働きかける包括的な実践学であり、その実践活動は5本の柱（個別相談・コンサルテーション・集団プログラム・危機介入・システム構築）に整理される。多様な教育課題について講義・演習し、スクールカウンセラー等として学校教育コミュニティの力を活かし、チーム連携に役立つ確かな働きができるための基礎力、解決方略を身につける。

■ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開【講義】

藤田 博康

子どもたちが非行を犯してしまう心理社会的メカニズムを理解し、非行少年やその家族への心理援助を考える。非行少年（少女）やその家族を、臨床心理学的観点からどのように理解し、どのように援助できるのかについて、具体的なケースを交えながら概説する。また、犯罪・少年非行・家事等の司法手続きについても概説する。

■ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開【講義】

隅谷 理子

“働くこと”にまつわる様々な心理的援助が産業心理臨床である。講義では、職場でおこる諸問題や職場のメンタルヘルスを知り、産業心理臨床の実践を具体的に学んでいく。また、その実践の基礎となる産業組織心理学・キャリア心理学の理論的視点からも理解を深め、人間の組織行動、キャリア形成、働く人の生きがいについて考えていくことを目標とする。

■ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践【講義】

八巻 秀

本講義では、家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践の基本について詳しく解説し、その学問的な位置づけや、その具体的な実践的な研究方法などについて、考えていくことを目標とする。

■ 心の健康教育に関する理論と実践（集中）【講義】

箕口 雅博

本講義では、心の健康教育の基本について詳しく解説し、その学問的な位置づけや、その具体的な研究方法などについて、考えていくことを目標とする。

■ 投影法特論a・b【講義】

茨木 博子／沼 初枝

本講義では、投影法の中でもロールシャッハ・テストを取り上げ、実施法、スコアリング、結果の整理、解釈法、及び検査の所見の書き方を学び、これを習得して、将来公認心理師、臨床心理士として実際の現場で活用できることを目指す。

■ 禅心理学研究（2）a・b【講義】

鈴木 常元

本講義では、禅心理学の基本について詳しく解説し、その学問的な位置づけや、その具体的な研究方法などについて、考えていくことを目標とする。

■ 行動分析学研究（2）a・b【講義】

久保 尚也

行動分析学は大きく2つの領域に分かれる。実験的行動分析学は動物や人間を対象とする実験研究に基づいて行動のメカニズム、働きについて研究し、応用行動分析学は、教育、臨床、福祉、産業など人間社会の様々な問題解決に取り組んでいる。そこで本講義では、行動分析学の基礎的な理論と技法の修得に加えて、最新の研究成果や応用研究についての理解が深まるような授業構成をとる。

■ 社会心理学研究（2）a・b【講義】

長谷川 孝治

本講義では、社会心理学の基本について解説し、その学問的な位置づけや具体的な研究方法などについて理解することを目標とする。

■ 生理心理学研究（2）a・b【講義】

岩城 達也

ヒトの感情や認知などの心理現象について生理指標を用いて評価する方法を学ぶ。心理現象と神経活動とを対応させながら理解することで、生理心理学の学問的位置づけと研究のフレームワークを学修する。

■ 認知心理学研究（1）【講義】

今井 久登

本講義では、認知心理学の基本的な内容について詳しく解説する。目標は、講義を通じて人間の知の特徴や仕組みの概要を理解し、自らの言葉で説明できるようになることである。また、心理学における基礎研究の意義や重要性についても考えを深め、最終的に各自の意見を持てるようになってもらえれば幸いである。

■ 認知心理学研究a・b【演習】

永田 陽子

本演習では、認知心理学の研究領域において、各自の研究の発展を目指すとともに、各自の研究能力を培うことを目標とする。

■ 行動分析学研究a・b【演習】

久保 尚也

本演習では、実験的行動分析学の最新のトピックスに関する英語論文の講読を通じ、ヒトや動物の行動についての理解を深めていく。また、受講生の研究テーマについても取り上げ、研究計画の検討、実験実施の指導についても演習内で適宜行い、各受講生の研究遂行に必要な能力を培っていく。

■ 社会心理学研究a・b【演習】

長谷川 孝治

本演習では、社会心理学の研究領域において、各自の研究の発展を目指すとともに、各自の研究能力を培うことを目標とする。

■ 生理心理学研究a・b【演習】

岩城 達也

本演習では、生理心理学の研究領域において、各自の研究の発展を目指すとともに、各自の研究能力を培うことを目標とする。

(2) 博士後期課程

● 目 的

心理学専攻は、独創的・自立的研究の実践が可能な人材の育成を目指すとともに、かつ専門教育指導者の涵養を目的とする。

● 学位授与の方針

博士後期課程においては、精神と身体に関する生物科学を基盤とした神経科学、認知科学、行動科学等最新の科学的知識の獲得、およびそれらの分野における研究遂行能力が満足すべきレベルに達しており、さらに自立した高度な研究遂行能力と問題解決能力が確立されていることが求められる。また、学会発表や学術論文などによって研究の成果が広く学界に公表され、相当の評価を得ていることが必要である。

● 教育課程の編成・実施方針

博士後期課程の教育課程は、指導教授による専門領域に関する「講義」と「研究指導」からなる。「講義」と「研究指導」は独立したものではなく、有機的な連関をもって院生が最先端の研究に従事できるような環境を整備し、そしてその研究成果を積極的に学会に発表し、さらに学術論文として公表できるよう支援体制を整えている。また、各院生がそれぞれの研究を支障なく遂行できるよう、必要に応じて専攻が保有する各種の実験機材を相互に利用できるよう各教員が横断的に技術指導を行う。

● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目（指導教員の講義）について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたいえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修すること。

年 次	必修科目	選択科目	合 計
1年次	指導教員の講義 4単位および研究指導	修得単位は任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義 4単位および研究指導		
3年次	指導教員の講義 4単位および研究指導		

● 学位論文の審査基準

博士論文は以下の基準に従って審査される。

1. 修士論文における審査基準を満たしていること。
2. 論文の内容が心理学ないし心理学に関連する領域において十分な学術的価値があると審査委員全員が認める独創的知見ないし集大成的知見を含んでいること。
3. 論文提出者が論文審査の時点において、博士（心理学）の学位を保持するに値するだけの十分な心理学に関する知識を所有し、かつ博士（心理学）の学位を授与するにふさわしいと判定される識見を持った人物であること。
4. 博士論文を提出する場合、該当する論文がすでに学術論文（単著か、共著の場合は提出者が第一執筆者である研究論文）や学会発表（第一発表者）の形で公表され、相当の評価を得ていること。
 - (1) 学術論文に関しては、国内・国外の審査のある学術雑誌に掲載された論文が原著論文1編を含めて合計2編以上あること。ただし、原著論文がなくすべてが資料や短報等である場合は、それらが原著論文に匹敵する体裁を備えている場合に限り、2編をもって原著論文1編とみなすことができる。
 - (2) 国外を含む学会において継続的に発表を行い、当該研究の発展を明確に示しうること。
 - (3) 当該研究に対する公的な評価（研究費や賞、またはそれに準ずるもの）が示されていることが望ましい。
5. 博士論文提出に際しては、事前に心理学専攻における予備審査を受けるものとする。

● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

● 開講科目 (a : 前期開講科目, b : 後期開講科目)

授業科目	学習方法	単位数	担当者		備考
心理学特殊研究 I a・b 心理学研究指導 I a・b	講義 研究指導	各2	専任・博 (教育)	藤田 博康	
心理学特殊研究 II a・b 心理学研究指導 II a・b	講義 研究指導	各2	専任・博 (教育)	遠藤 歩	
心理学特殊研究 IV a・b 心理学研究指導 IV a・b	講義 研究指導	各2	専任・博 (学術)	岩城 達也	
心理学特殊研究 V a・b 心理学研究指導 V a・b	講義 研究指導	各2	専任・博 (学術)	長谷川 孝治	
心理学特殊研究 VI a・b 心理学研究指導 VI a・b	講義 研究指導	各2	専任・博 (心)	茨木 博子	
心理学特殊研究 VII a・b 心理学研究指導 VII a・b	講義 研究指導	各2	専任・博 (文)	永田 陽子	

● 授業科目の概要

- 心理学特殊研究 I a・b 【講義】
- 心理学研究指導 I a・b 【研究指導】

藤田 博康

大学院生の研究テーマに即した博士論文作成のための研究指導を行う。

- 心理学特殊研究 II a・b 【講義】
- 心理学研究指導 II a・b 【研究指導】

遠藤 歩

大学院生の研究テーマに即した博士論文作成のための研究指導を行う。

- 心理学特殊研究 IV a・b 【講義】
- 心理学研究指導 IV a・b 【研究指導】

岩城 達也

大学院生の研究テーマに即した博士論文作成のための研究指導を行う。

- 心理学特殊研究 V a・b 【講義】
- 心理学研究指導 V a・b 【研究指導】

長谷川 孝治

大学院生の研究テーマに即した博士論文作成のための研究指導を行う。

- 心理学特殊研究 VI a・b 【講義】
- 心理学研究指導 VI a・b 【研究指導】

茨木 博子

大学院生の研究テーマに即した博士論文作成のための研究指導を行う。

- 心理学特殊研究 VII a・b 【講義】
- 心理学研究指導 VII a・b 【研究指導】

永田 陽子

大学院生の研究テーマに即した博士論文作成のための研究指導を行う。